

平成24年度進行管理・評価シート

恵那市歴史的風致維持向上計画（平成23年2月23日認定）

（最終変更平成24年3月30日）

□進捗評価シート(様式1)

①組織体制(様式1-1)

1 計画実現のための体制	1
--------------	---

②重点区域における良好な景観を形成する施策(様式1-2)

1 景観形成に関する取組みについて	2
-------------------	---

③歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項(様式1-3)

1 岩村藩鉄砲鍛冶加納家取得・修理事業	3
2 岩村城石垣修理事業	4
3 木村邸整備事業	5
4 岩村城下町まちなみ保存事業	6
5 岩村駅前広場整備事業	7
6 電線類の地中化とまちなか道路(街路灯含む)修景事業	8
7 祭礼復興事業(武並宮御祭礼規定に基づく祭礼)	9
8 岩村城・岩村城下町・美濃国遠山荘総合調査事業	10
9 歴史的町並み修景整備助成事業	11
10 中山道保存修景整備事業	12
11 ふるさと文化普及継承事業	13
12 歴史まちづくり推進事業	14
13 八王子神社社殿拝殿保存修理補助事業	15

④文化財の保存又は活用に関する事項(様式1-4)

1 文化財の修理(整備を含む)	16
2 文化財の防災	17
3 文化財の普及・啓発	18

⑤効果・影響等に関する報道(様式1-5)

1 岩村城下まつり活気	19
-------------	----

□法定協議会等におけるコメントシート(様式4)	20
-------------------------	----

評価軸①-1
組織体制

	評価対象年度	平成24年度
項目	現在の状況	
計画実現のための体制	<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	

計画に記載している内容 歴史まちづくり事業は、歴史、文化、観光、建設、都市整備等の多岐の分野に関連するため、本市では「歴史まちづくり連絡調整会議」を設置し、関係課(事業担当部課)間の横断的な連絡調整を行うものとする。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

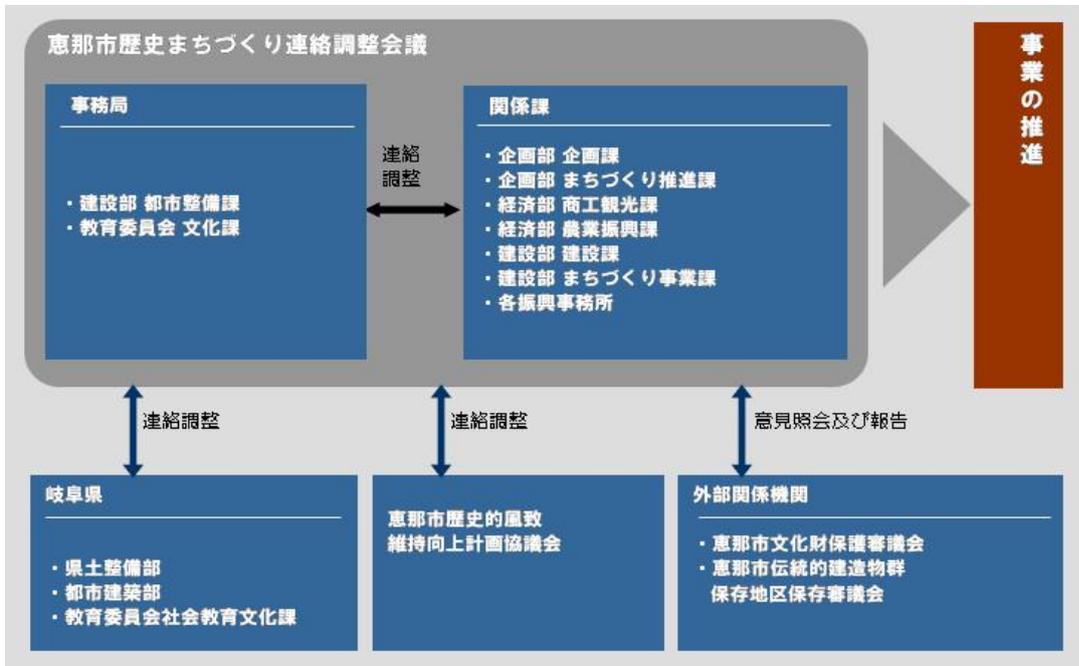
都市整備課・文化課・まちづくり事業課等関係課から構成される「歴史まちづくり連絡調整会議」を随時開催し、関係課間との連絡調整、事業施工に関する打合せを行った。
 恵那市歴史的風致維持向上計画協議会については、年度末の3月26日に実施し事業の評価を行った。

進捗状況 ※計画年次との対応

実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

- 計画どおり進捗している
- 計画どおり進捗していない

状況を示す写真や資料等



平成25年3月26日開催
 恵那市歴史的風致維持向上計画協議会

- 平成24年度進捗評価シートについて
- ①進行管理・評価の実施要領
 - ②平成24年度進行管理・評価シートについて
 - ③岩村おかげまつりの様子について

岩村地区の事業の評価、今後のまちづくりの課題等について、議論された。

評価軸②-1

重点区域における良好な景観を形成する施策

		評価対象年度	平成24年度
項目		現在の状況	
景観形成に関する取組みについて		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	

計画に記載している内容 景観法に基づく景観計画の策定に向けて、平成20年度より庁内関係部課、学識経験者及び地域住民等で構成する景観計画策定委員会にて恵那市全域の方針や規制の検討を行うとともに、平成21年度からは、地域住民等で構成する地域ワークショップの開催等を通じて地域毎の景観の形成に関する基本方針や行為の制限について併せて検討を行っている。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

恵那市景観条例、恵那市景観条例施行規則の施行(平成24年4月1日施行)。内、行為の届出に関するこの規定は、平成24年10月1日から施行した。
 平成24年度の行為の届出件数は、事前協議件数16件、届出件数15件があった。
 本条例を施行することにより、一定規模以上の建築行為や開発行為を行う場合、および建築物・工作物の外観に特定の色彩を用いる場合には、行為の着手前に計画内容に関する届出を行ってもらい、景観計画で定める景観形成基準に適合しているかどうか審査を行い、必要に応じ協議・指導を行っていくことにより、良好な景観の形成を育み、居住環境等の向上を図る。

進捗状況 ※計画年次との対応 実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

計画どおり進捗している
計画どおり進捗していない

状況を示す写真や資料等

恵那市景観条例(平成24年4月1日施行)
 内、行為の届出に関するこの規定は、平成24年10月1日から施行

◆ 景観形成基準

① 建築物の建築等/工作物の建設等

配置	▶ 主要な眺望点からの山並みや自然景観への眺望を阻害しない配置とする。
形態・意匠	▶ 周囲の自然景観や集落景観、町並み、田園等と調和するような配置・形態意匠とする。 ▶ 壁面の規模が大きな建築物・工作物は、威圧感や圧迫感を低減させるよう形態意匠を工夫する。また大面積に具象な絵柄や必然性のないデザイン、華美な装飾を施さないようにする。
材質	▶ 光沢のある材料や反射光の生じる素材を大部分にわたって使用することは避ける。
高さ	▶ 建築物および工作物の高さの制限は右のとおりとする。 (ただし市長が認めるものはこの限りでない) 用途地域内: 25m以下 用途地域外: 15m以下 ▶ ただし上記の基準内の高さであっても、主要な眺望点からの山並みや自然景観への眺望を阻害しないようにする。
色彩	▶ 素材の持つ自然色を生かし、彩度、明度の高い色彩を基調色として用いないようにする。また農村地域においては、周辺の農地や自然景観に調した色調とする。 ▶ 外観の色彩は右のとおりとする。ただし着色していない木材、土壁、ガラス等の材料によって仕上げられる部分の色彩、見付面積の1/10未満の範囲内で外観のアクセント色として着色される部分の色彩についてはこの限りでない。 ▶ 使用する色数はできる限り少なくし、複数の色を使用する場合は、色の三属性(色相、明度、彩度)の対比が強くなるよう配慮する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> 彩度: R・Y : 4.0以下 YR : 6.0以下 GY~RP: 2.0以下 明度: 制限なし </div>

② 開発行為/土石の採取等における土地の形質の変更

- ▶ 造成は必要最小限とし、既存の地形・樹木などの自然条件を活かすことで、景観上の違和感を生じさせないようにする。
- ▶ 現況の地形を可能な限り活かし、長大なり面や擁壁が生じないようにする。長大な擁壁やのり面が生じる場合は、前面を緑化するなど周囲の景観と馴染ませるよう努める。
- ▶ 擁壁については高さを極力抑える。
- ▶ 土石の採取等については、景観体験軸に設定した道路・鉄道等から望見できないよう掘削位置及び方法を工夫する。
- ▶ 土石の採取後は、地域の自然植生と調和した緑化を行い、自然環境及び景観の復元に努める。

③ 屋外における土砂・廃棄物・再生資源その他の物件の堆積

- ▶ 景観体験軸に設定した道路・鉄道等から望見できる範囲においては、長期に渡り土砂、廃棄物、再生資源等の堆積は行わない。
- ▶ 堆積を行う場合は、景観体験軸に設定した道路・鉄道等から堆積物が見えないよう配置を工夫する。それが困難な場合は、植栽や塀を設ける、積み上げ高さを低く抑える等の配慮を行う。

評価軸③-1

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

		評価対象年度	平成24年度
項目		現在の状況	
岩村藩鉄砲鍛冶加納家取得・修理事業		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	

事業期間 平成22年度～平成25年度

支援事業名 社会資本整備総合交付金(都市再生整備計画事業)

計画に記載している内容
 重要伝統的建造物群保存地区から少し離れた場所に位置しているが、この建造物の周囲は旧武家町であることから、取得修理を行い、公開することで、重点地域内の回遊性の向上に寄与し、歴史的風致の維持及び向上を図るとともに町の魅力を高めることができる。
 事業概要:土地(取得)637.62㎡ 建物(寄付)主屋1階180.59㎡2階52.99㎡ 土蔵1階29.19㎡2階20.14㎡ 離れ42.22㎡の修理

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

平成24年度は、修理工事に着手。後補部材の解体と並行して痕跡調査を実施し、修正された修理方針に従い、設計の見直しと修理を進めた。平成25年3月末現在の進捗率40%。平成25年6月末完成予定。

進捗状況 ※計画年次との対応

進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない	完成後の管理及び公開方法の決定、回遊性を生み出すための工夫が課題である。地域のまちづくり組織と協議し、有効な方策を検討していく。

状況を示す写真や資料等



加納家古写真



加納家改修前外観



現場公開 100名以上が観覧
(修繕の様子を一般公開)



現地指導
(修理委員会による現地指導)

評価軸③-2

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

		評価対象年度	平成24年度
項目		現在の状況	
岩村城石垣修理事業		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	

事業期間 平成23年度～平成31年度

支援事業名 市単独事業

計画に記載している内容
 標高717mの急峻な山の頂に築造された近世山城の代表・岩村城を支えてきた石垣である。これまで修理が行われてきたが、木根や流水等によって石が浮いたり、孕んだりしている箇所も見られ、一部、崩壊の危険性の高い箇所も見られる。本石垣は、本丸等が無くなった現在においても、城下町の形成と発展を牽引してきた岩村城の基礎として、地域の歴史を物語る大きな拠り所となっている。当事業により石垣の修理を行うことで、地域の歴史的風致の維持を図ることができる。
 事業概要:発掘調査の後、崩壊の危険性の高い石垣の修理(約300㎡)。石垣支障木の伐採。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

平成24年度は、一ノ門～土岐門の間を中心として、サクラ12本、カエデ4本、スギ1本、ヒノキ1本、ケヤキ1本の合計19本の障害木を伐採した。障害木の伐採は、今後も優先度の高いものから計画的に実施する。石垣本体の修理は、危険性の高い箇所等の調査を行った。

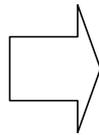
進捗状況 ※計画年次との対応 実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

計画どおり進捗している
計画どおり進捗していない

状況を示す写真や資料等



障害木伐採施行前



障害木伐採施工後



障害木伐採状況
 (朽木、倒木の危険性の高い樹木の伐採を行う)



草刈清掃作業
 (ボランティアによる草刈・清掃作業)

評価軸③-3

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

		評価対象年度	平成24年度
項目		現在の状況	
木村邸整備事業		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	

事業期間 平成23年度～平成26年度

支援事業名 国宝・重要文化財等保存整備費補助金

計画に記載している内容
 本住宅は、地域の歴史文化を物語り、重要伝統的建造物群保存地区内でも最も市民や観光客の関心を引く建物であり、歴史的風致を形成する重要な資源の一つとなっている。当事業により建築物を修理することで、地域の歴史的風致の維持を図ることができる。また、本住宅は、現在一般公開を行っているが、今後は企画展等を行い、地域の歴史文化を紹介していくことで、歴史的風致を担う市民への意識向上を図っていくものとする。
 事業概要:敷地面積826㎡ 床面積718㎡ 木造3階建 土蔵及び離れの修理、改修、増築部分撤去、火災報知機設置。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

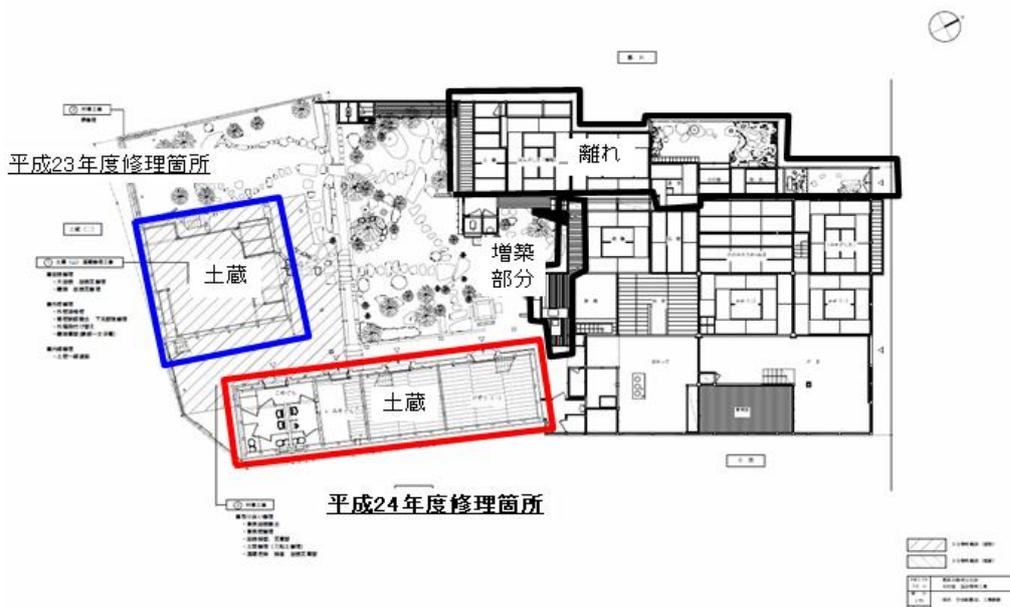
四戸前土蔵(土蔵造2階建て、135.78㎡)の修理を実施した。
 修理の内容は屋根葺替え、なまこ壁の貼り直し、漆喰塗りなおしを行った。

進捗状況 ※計画年次との対応

実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

■計画どおり進捗している
計画どおり進捗していない
 重要伝統的建造物群保存地区内の核となるべき建物であるが、主屋の建築年代が特定されていないので、保存修理の際の痕跡調査や文献等の史料の調査により可能な限り建築年代を明らかにする。

状況を示す写真や資料等



木村邸四戸前土蔵改修前写真



木村邸四戸前土蔵改修完成写真

評価軸③-4

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

	評価対象年度	平成24年度
項目	現在の状況	
岩村城下町まちなみ保存事業	<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	

事業期間 平成22年度～平成31年度

支援事業名 国宝・重要文化財等保存整備費補助金

計画に記載している内容 重要伝統的建造物群保存地区内の歴史的建造物に対し、修理修景に助成を行うことにより、後継者不足や修理費用の負担、また火災等の災害による歴史的建造物の滅失・荒廃といった課題を解決し、歴史的建造物を保護することで、歴史的風致の維持向上を図る。
 事業概要:重要伝統的建造物群保存地区内の家屋の保存修理、防災事業等。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

伝統的建造物(建築物)は2件が追加され総計187件となった。
 このうち6件の修理に助成を行った。
 主な家屋修理内容(屋根葺替え、外壁張替え、格子取付け等)

進捗状況 ※計画年次との対応 実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

計画どおり進捗している
計画どおり進捗していない

状況を示す写真や資料等

屋根・外壁面の修理により町並み景観に調和した家屋



改修前写真



屋根・外壁改修完成写真



改修前写真



屋根外壁改修完成写真

評価軸③-5

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

	評価対象年度	平成24年度
項目	現在の状況	
岩村駅前広場整備事業	<input checked="" type="checkbox"/> 実施済 <input type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	

事業期間 平成23年度～平成24年度

支援事業名 社会資本整備総合交付金(都市再生整備計画事業)

計画に記載している内容 明知鉄道岩村駅は、岩村の歴史文化及び観光の顔であり、情報を発信する拠点でもある。今後地域住民などと協議し駅前を待合としての機能だけでなく、もてなしの機能も備えた空間としていく。また、隣接するトイレは老朽化し、バリアフリー化も図られていないためバリアフリー化したトイレを整備する。
 岩村の歴史文化及び観光の情報発信拠点としての岩村駅周辺を整備し、環境の向上を図ることは、住民や来訪者の利便性の向上により町の充実が図られ、来訪者の増加を期待できる。
 事業概要:岩村駅に付属のトイレの整備。待合所の改築。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

駅前広場整備のため、老朽化したトイレの解体を行いバリアフリーに対応したトイレを新築した。外観には城下町を意識した格子形状の外壁に施行し、歴史まちなみ景観に調和させた。休憩所の整備を行うとともに、歩車道ブロック等設置により歩行者の安全が図れるようになった。

進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない	

状況を示す写真や資料等



整備前 岩村駅全景



整備後 岩村駅全景



整備後 岩村駅前道路



駅横に整備された休憩所

評価軸③-6

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

	評価対象年度	平成24年度
項目	現在の状況	
電線類の地中化とまちなか道路(街路灯含む)修景事業	<input checked="" type="checkbox"/> 実施済 <input type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	

事業期間 平成21年度～平成24年度

支援事業名 社会資本整備総合交付金(都市再生整備計画事業)

計画に記載している内容
 岩村町本通りは、重要伝統的建造物群保存地区内を通る道路であり、沿道の伝統的建造物等との歴史的な趣の調和が求められる。電線類を地中化することにより、景観に配慮し、安全な通りとすることができる。また、道路美装と街路灯の整備を行うことにより、町並みの美観が図られ、歴史的風致を活かしたまちづくりとともに防災面でもすぐれたまちづくりを行うことができる。
 事業概要:電線類の地中化にあわせて道路の美装化と街路灯の付替えを行う(延長1230m)。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

岩村町本通り整備として、電線類地中化工事を行った。道路舗装路面は周囲の景観に併せたカラー舗装を行った。街路灯についても、新規に町並み景観に調和した街路灯に取替えを行うことにより、より歴史・城下町を感じられる町並みとなり、観光に訪れる人が増加した。

進捗状況 ※計画年次との対応 実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

計画どおり進捗している
計画どおり進捗していない

状況を示す写真や資料等



事業実施前 町並み景観



電線地中化により整備された町並み



街路灯取替え



平成23年11月14日いわむら城下おかげまつり
 整備された町並みを会場に行ったイベントでは大勢の観光客が訪れた。

評価軸③-7

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目	評価対象年度	平成24年度 現在の状況
祭礼復興事業(武並宮御祭礼規定に基づく祭礼)		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手

事業期間 平成22年度～平成31年度

支援事業名 市単独事業

計画に記載している内容 毎年10月第1週の土曜日から日曜日にかけて行なわれる「岩村町秋祭行事」は、岩村城を築いた加藤景廉の子である景朝のご神体を神輿に乗せ、時代衣装を身にまとった総人員約300人が長さ300mに及ぶ行列を整え武並神社を出発し、岩村町本通り(重要伝統的建造物群保存地区)約1.7kmを練り歩き、景廉が祀られている八幡神社に運ぶ。翌日、神輿は再び行列によって武並神社に帰る。行列の役割・内容などは、嘉永5年の「武並宮御祭礼規定」にある次第から変化しておらず、行列中の御神馬に使用する飾馬具類は、天保の頃のものを使用されていることから傷みが目立っている。祭りに使う衣装類の計画的な整備を行うなど、地域で長年受け継がれている伝統行事を支援することで、歴史的風致の維持向上と地域住民の景観形成や歴史文化に対する意識の向上を図る。
事業概要: 岩村町秋祭行事の祭礼衣装等の整備。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

平成24年の岩村町秋祭行事は、10月6日・7日の両日に行われ、以下のように助成を行った。
祭具(消耗品): 子供用シューズ98、白足袋50、藁草履28、筆箸舌5
祭具(修理): 鉦鼓、その他楽器修理、花車飾り更新。その他衣装管理

進捗状況 ※計画年次との対応

実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

- 計画どおり進捗している
- 計画どおり進捗していない

状況を示す写真や資料等

岩村町秋祭り行事の「神輿渡御行列(みこしとぎょぎょうれつ)」
約380年続く伝統的な行列が練り歩く



秋祭り 神輿渡御行列(みこしとぎょぎょうれつ)



打ち囃子



小学生による花神輿歩き



観光客が沿道を埋める中、行列の練り

評価軸③-8

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

		評価対象年度	平成24年度
項目		現在の状況	
岩村城・岩村城下町・美濃国遠山荘総合調査事業		<input checked="" type="checkbox"/> 実施済 <input type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	

事業期間 平成20年度～平成24年度

支援事業名 国宝・重要文化財等保存整備費補助金 市単独事業

計画に記載している内容
 岩村城跡・城下町とこれに関連する市内の遺跡、有形文化財等の調査を行うことにより、関連する文化財の総合的な把握を行う。それによって得られた知見に基づいた価値付けを行うことで岩村城跡・城下町の今後の文化財保護と活用、歴史を活かしたまちづくりを推進することにより、歴史的風致の維持向上に寄与するものである。
 事業概要:岩村城跡石垣悉皆調査、岩村城跡植生調査、中近世石塔調査、岩村城跡発掘調査、岩村城・城下町範囲確定のための分布調査。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

平成20年度～24年度に行った調査について、発掘調査のとりまとめを行い報告書として刊行した。

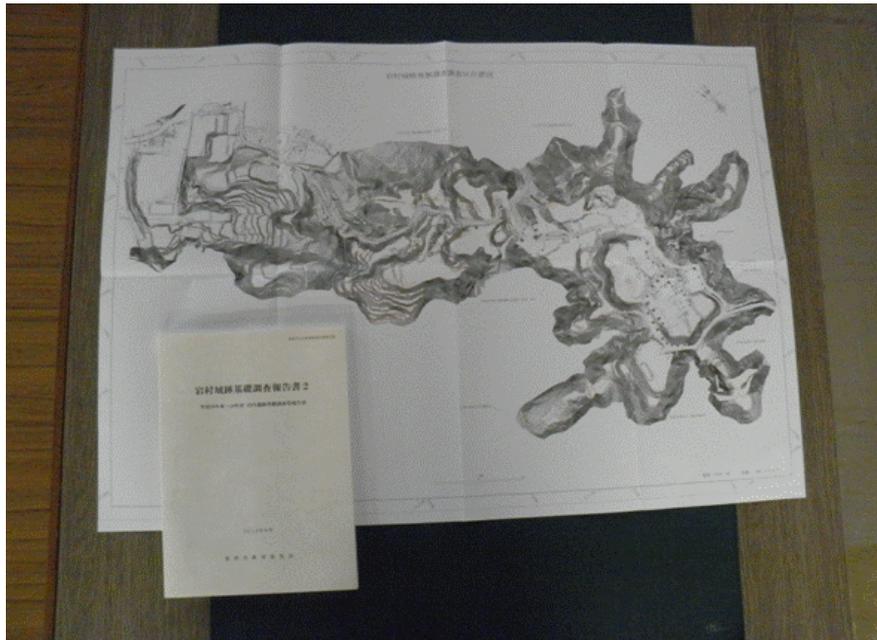
進捗状況 ※計画年次との対応

実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

計画どおり進捗している
計画どおり進捗していない

状況を示す写真や資料等

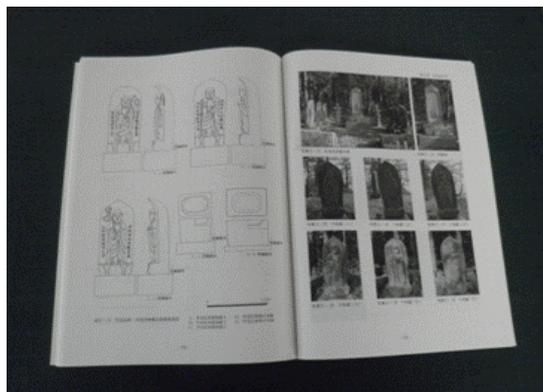
岩村城跡基礎調査報告書2
 平成20年度～24年度 市内遺跡発掘調査等報告書



岩村城跡基礎調査報告書2

目次

- 第1章 調査の経過
- 第2章 遺跡の位置と環境
- 第3章 調査の概要
- 第4章 遺構と遺物
- 第5章 岩村城下町
- 第6章 総括
- 報告書抄録
- 岩村城跡発掘調査調査区位置図



評価軸③-9

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

	評価対象年度	平成24年度
項目	現在の状況	
歴史的町並み修景整備助成事業	<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	

事業期間 平成24年度～平成31年度

支援事業名 市単独事業

計画に記載している内容 中山道の宿場町としての面影を残す大井宿周辺の建造物等について、所有者等が行う修復・修景事業の一部を助成し、町並み景観の向上を図り、連続性を向上させ歴史的風致の維持及び向上に寄与する。
 事業概要: 宿場町大井地区内の大井宿周辺の建造物等について、平成24年度に建造物の悉皆調査とガイドラインの作成を行う。

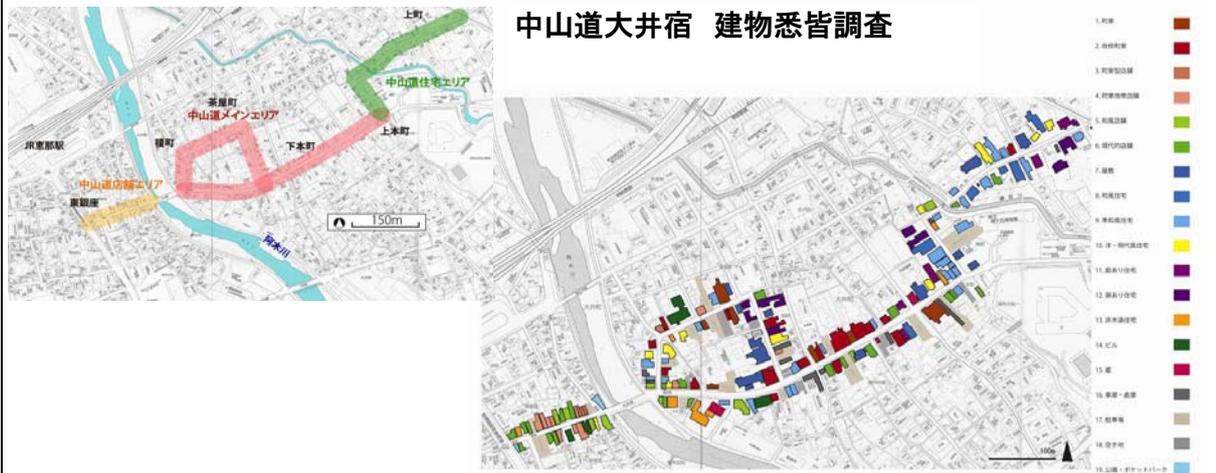
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

中山道大井宿の建造物悉皆調査について実施、街道沿いの建造物、地内に張り巡らされた水路についての調査結果の取纏めを行った。

進捗状況 ※計画年次との対応 実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

計画どおり進捗している
 計画どおり進捗していない

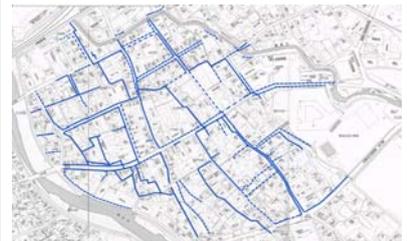
状況を示す写真や資料等



中山道大井宿 現況建物タイプ別

タイプ	概要	写真	タイプ	概要	写真
町家	町に對して集積が強く、建物用途が通りを貫通している。瓦葺屋根が多くあり、土間も土間に石畳の敷き合わせなど、外観は趣のあるものが多く見られる。		準和風住宅	在来土間に建てられて、瓦葺屋根であるが、外観は洋風で、木造の素材も用いられている。最近の建築の傾向が見えやすい。	
改修町家	町家の形式であるが、外観や窓、出入り口が現代的な素材に改修されている。外観の趣は土間に石畳の敷き合わせなど、アールデコを使用しているものが、趣のあるものもある。		洋・現代風住宅	外観にタイルが用いられているなど、趣が和風でないなど、昔風を思わせるもの、ハウスメーカーによるものもある。	
町家型店舗	町家の形式の店舗で、一階部分がほぼ全階が店舗で、店舗内部の様子が見える。		庭あり住宅	建物が通りから後退しており、通りからの視線や緑が見えるもの。	
町家改修店舗	町家型店舗との違いは土間に石畳の敷き合わせが、趣のあるものが多い。		堀あり住宅	通りを隔てて堀やフェンスが建ち、建物は後退しているもの、堀取の上下に緑などがみられるもの。	
和風店舗	建物が通りを隔てて、木造の構造材が露出している。和風の趣を演出しているものもある。		非木造住宅	非木造建物が平屋で全棟が瓦葺の建物が三階建て以下の住宅。	
現代的店舗	非木造のビル。外観が木造で、和風の趣を演出しているものもある。		ビル	四階建て以上の非木造の建物。	
屋敷	建物が木造で、瓦葺屋根に施されている。建物は趣のあるものが多い。堀や土間に石畳の敷き合わせが見られる。		蔵	外観は洋風で、瓦葺屋根の石造の建物。	
和風住宅	在来土間に建てられて、瓦葺屋根、木造の構造材が露出しているものもある。外観は土間に石畳の敷き合わせなど、趣のあるものもある。		車庫・倉庫	トンネルを掘り、土間に木造の倉庫。	

中山道大井宿 大井町用水路調査



評価軸③-10 歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項		評価対象年度	平成24年度
項目		現在の状況	
中山道保存修景整備事業		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	
事業期間	平成22年度～平成31年度		
支援事業名	市単独事業		
計画に記載している内容	中山道は、江戸時代の五街道の一つであり、大湫(瑞浪市)以東、藤村・竹折村・久須見村四ツ谷・中野村を経て、美濃十六宿の一つ大井宿に至り、ここより茄子川・千旦林を通り中津川宿を抜ける。この行程中、中野・大井あたりは平坦地で、通行する幕府や諸藩の諸荷物や参勤交代行列、一般の人馬の宿泊・休憩所として賑わった。現在も中山道は来訪者が多く訪れ非常に親しまれている街道であるとともに、七日市や渡御行列が行われる重要な場所でもある。この中山道を良好に保存し環境整備をすることにより、歴史的風致の維持向上に寄与する。 事業概要:中山道沿線の草刈り、利便施設の維持管理に対する助成を行う。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
地域住民による中山道周辺の草刈作業等環境整備に対し助成した。(平成24年度実績:2件) また市民のボランティア活動による明治天皇行在所の整備に対し助成した。(平成24年度実績:1件) こうした官民協働の取り組みを通じて、街道沿いの環境向上はもとより、地域住民の景観まちづくりに対する意識の醸成が図られた。			
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)		
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない			
状況を示す写真や資料等			
<h3>中山道周辺環境整備</h3> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>河川清掃、草刈作業</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>道路清掃、草刈作業</p> </div> </div> <h3>中山道大井宿 明治天皇行在所(岩井邸)整備</h3> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>岩井邸土間整備</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>岩井邸土間整備 中学生ボランティア活動で参加</p> </div> </div>			

評価軸③-11

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

		評価対象年度	平成24年度
項目		現在の状況	
ふるさと文化普及継承事業		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	

事業期間 平成24年度～平成31年度

支援事業名 市単独事業

計画に記載している内容 宿場町大井地区を中心として、文化財等の文化遺産について、広く市民、来訪者に啓発することにより、歴史文化に対する意識の向上を図る。また、祭礼行事や歴史文化に関する伝承や後継者を育成することにより後世に渡って良好な歴史的風致を維持することができる。
 事業概要:文化財等の保存・活用に関わっている団体やまちづくり協議会等の地域組織と連携をとりながら、文化財等の普及啓発活動を行う。また、地域住民や学校などに働きかけイベントや講習会の実施、歴史遺産の調査を行うことで歴史文化に関心をもっていただくとともに、後継者の育成に努める。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

中山道かたりべ講座の現地学習では、中山道沿いの石碑や神社、一里塚などを学習し、講座に参加した受講生からボランティアガイドを育成していくことができた。
 明治天皇行在所で行った『新年かるた大会・紙芝居上演会』では、地域の昔話等を題材とし、子どもたちに歴史文化の伝承や歴史まちづくりの意識の向上を図ることができた。

進捗状況 ※計画年次との対応 実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

計画どおり進捗している
計画どおり進捗していない

状況を示す写真や資料等

中山道かたりべ講座 現地学習会
 ボランティアガイド養成講座 全6回開催



馬頭観音について説明



甚平坂のいわれを紹介

旧中山道大井宿 明治天皇行在所「新年かるた大会・紙芝居上演会」



恵那の昔話の中から中山道に関係した話を上演



百人一首や犬棒かるた(いろはかるた)

評価軸③-12

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

	評価対象年度	平成24年度
項目	現在の状況	
歴史まちづくり推進事業	<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	

事業期間 平成24年度～平成27年度

支援事業名 市単独事業

計画に記載している内容 地域住民と行政が協力して歴史的な町並みやまちの活性化に繋がる事業を立案、実施することにより、歴史的風致を幅広く、総合的に維持向上していくことができ、またこうした取組みを行うことで、地域住民の歴史文化に対する意識の高揚を図ることができる。
 事業概要:宿場町大井地区を中心に、地域住民からの歴史的風致維持向上のための町並み形成、また地域の活性化に繋がる提案事業について支援を行う。また、必要な調査についても出来るだけ地域住民も参加して行うなど計画段階から地域住民とともに立案していく。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

中山道大井宿を含む大井町の地域住民参加を呼びかけた大井町景観まちづくりワークショップを平成25年1月19日(26名参加)と3月2日(36名参加)の2回開催した。24年度は「キックオフ」と位置づけ地域の現状把握とワークショップを経験してもらうことを趣旨として開催。

進捗状況 ※計画年次との対応

実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

計画どおり進捗している
 計画どおり進捗していない

状況を示す写真や資料等

大井町景観まちづくりワークショップ

大井町のこれからのまちづくりを考える
 ～景観まちづくりワークショップ～

恵那病院の再整備、新東濃バイパスの開通、恵那駅の再整備、リニア中央新幹線のルート市の決定等、大井町を取り巻く環境は今後大きく変わっていくことが想定されます。そうした中で大井町の自然、歴史・文化等の地域資源を生かした、より住みやすい地域にしていくための「景観まちづくり計画」を地域の皆さんが主体となり作り上げていく必要があります。
 今回の「景観まちづくりワークショップ」では、これからの大井町のまちづくりの目的、対象、方向性を、広く議論していただくための始まりの会となります。

大井町にお住まいのみなさん、「まちづくり」について一緒に考えていきましょう。どなたでも参加できます。

市内で行われたワークショップの風景

内容

- ①景観まちづくりについて
- ②事例発表
- ③大井町の現状
- ④グループ討議(ワークショップ)

- 日 時 平成25年1月19日(土) 午後1時30分～午後3時30分
- 会 場 大井小学校体育館 (会場駐車場の都合上、お近くの方はできるだけ徒歩にてお越し下さるようご協力お願いします。)
- 主 催 恵那市役所 建設部都市整備課 0573-26-2111(内232)



1月19日開催
 景観まちづくりワークショップ



グループで出された意見を発表

地区内全戸に配布した開催チラシ

評価軸③-13

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

	評価対象年度	平成24年度
項目	現在の状況	
八王子神社社殿拝殿保存修理補助事業	<input checked="" type="checkbox"/> 実施済 <input type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	

事業期間 平成23年度～平成24年度

支援事業名 岐阜県文化財保護事業補助金 市単独事業

計画に記載している内容
 八王子神社は、寛永14年(1637)に旗本遠山氏により再建された。現在の社殿(県重要文化財)は延宝4年(1676)に造営されたもので、本殿・幣殿・拝殿を連結したいわゆる権現造であり、当初の姿をよくとどめており、江戸時代前期の神社建築として貴重な建物である。また10月に行われる例祭とあいまって独特の風情を醸し出している。
 この八王子神社拝殿の保存修理を行うことにより、歴史的風致の維持向上に寄与する。
 事業概要:八王子神社拝殿の修理に対して助成を行う。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

拝殿の修理事業に対して助成を行った。
 修理の内容は老朽化雨漏りしていた拝殿屋根の葺替えを行い、拝殿内は床下補修、畳替えを行った。

進捗状況 ※計画年次との対応 実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

計画どおり進捗している
計画どおり進捗していない

状況を示す写真や資料等



拝殿屋根の修理 着工前



完成後



拝殿屋根の修理 着工前



完成後

評価軸④-1

文化財の保存又は活用に関する事項

		評価対象年度	平成24年度
項目		現在の状況	
文化財の修理(整備を含む)		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	

計画に記載している内容
 文化財の修理や整備にあたっては、文化財の種類に応じ、関係法令を遵守し、適正な手続きによる対応をすることとする。また、修理にあたっては史料に基づいた修理を基本とし、周辺の文化財等の整備状況と整合させながら整備を行うものとする。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

岩村藩鉄砲鍛冶加納家の保存修理、解体と並行して痕跡調査を実施し、設計の見直しと修理を進めた。(3項参照)
 岩村城跡石垣障害木の伐採(石垣修理事業)作業を実施した。(4項参照)
 八王子神社社殿の保存修理、解体と調査を並行して行い、設計の見直しと修理を進めた。(15項参照)

進捗状況 ※計画年次との対応

実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

計画どおり進捗している
計画どおり進捗していない

状況を示す写真や資料等



岩村藩鉄砲鍛冶加納家の保存修理
 修理委員会による建物調査



岩村城跡石垣障害木の伐採(石垣修理事業)



八王子神社社殿の保存修理
 解体と調査を同時に行い、設計に反映させながら修繕を行った。



八王子神社社殿の保存修理
 完成写真

評価軸④-2

文化財の保存又は活用に関する事項

項目	評価対象年度	平成24年度 現在の状況
文化財の防災		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手

文化財を火災や盗難から守るためには、文化財及びその周辺の状況を事前に把握しておく必要があるため、消防本部、警察署等と市内の文化財について建造物を中心に所在場所の情報を共有し連携を強化するとともに、査察を行ったり啓発している内容
 ポスターを配布したりすることにより予防に努め、主要な建造物の消火訓練や連絡体制の確認を行い文化財の防火防災に対する意識の高揚を図る。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

岩村町本通りは、重要伝統的建造物群保存地区内を通る道路であり、沿道には伝統的建造物等が建ち並ぶ。地元住民及び、地元消防団、消防署などと協力した防災訓練を実施。
 地域住民や関係団体による啓発活動として火災予防の夜回りを実施。

進捗状況 ※計画年次との対応

実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

- 計画どおり進捗している
- 計画どおり進捗していない

状況を示す写真や資料等



地域住民による消火訓練
平成25年1月20日



地元消防団員による放水訓練
平成25年1月20日



消防団・消防署連携放水訓練
平成25年1月20日



火災予防夜回り
平成25年1月26日

評価軸④-3

文化財の保存又は活用に関する事項

項目	評価対象年度
	平成24年度 現在の状況
文化財の普及・啓発	<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手

計画に記載している内容 市民が市内各地に点在する文化財等の地域資源を生涯学習として学ぶ機会を創り出すことにより文化財保護の普及・啓発に努める。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

市内街並み保存団体、まちづくり協議会、歴史研究会等の文化財の保存・活用に係わる各種団体との連携を取りながら、文化財の普及・啓発活動、文化の担い手育成等に各種行事を実施した。

進捗状況 ※計画年次との対応

実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

計画どおり進捗している
計画どおり進捗していない

状況を示す写真や資料等

平成24年度に行った行事

岩村城跡清掃活動 5月27日 80名 7月28日 90名
 伝統文化子ども教室 4教室 65名
 恵那市伝統芸能大会 2月24日 979名
 中山道かたりべ養成講座(6回開催) 26名



「城下町ホットいわむら」の主催で行われた岩村城跡清掃活動。5月27日に行われた作業で本丸石垣の草取りをしている様子。



伝統文化子ども教室のうち、武並町のみちぶえ伝承講座の様子



伝統文化子ども教室のうち、東野歌舞伎子ども教室の発表会(10月28日)



中山道かたりべ養成講座。8月6日に行われた時の様子

評価軸⑤-1

効果・影響等に関する報道

報道等タイトル	年月日	掲載紙等
岩村城下まつり活気	2012年11月6日	岐阜新聞
希少家屋を新名所に	2012年12月2日	中日新聞
2012いわむら城下おかげまつり	2012年11月号	地元情報誌

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

岩村町で「2012 いわむら城下おかげまつり」を開催。これまでの会場であった岩村コミュニティセンター(公民館)から古い町並み一帯(本通り)に移して実施。
当日は好天に恵まれ、さらに秋の行楽シーズン最盛期という好条件も重なって、昨年の約5000人を遥かに上回る1万3,000人來場者があり、古い町並みがかつてないほどの賑わいを見せた。

進捗状況 ※計画年次との対応

実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

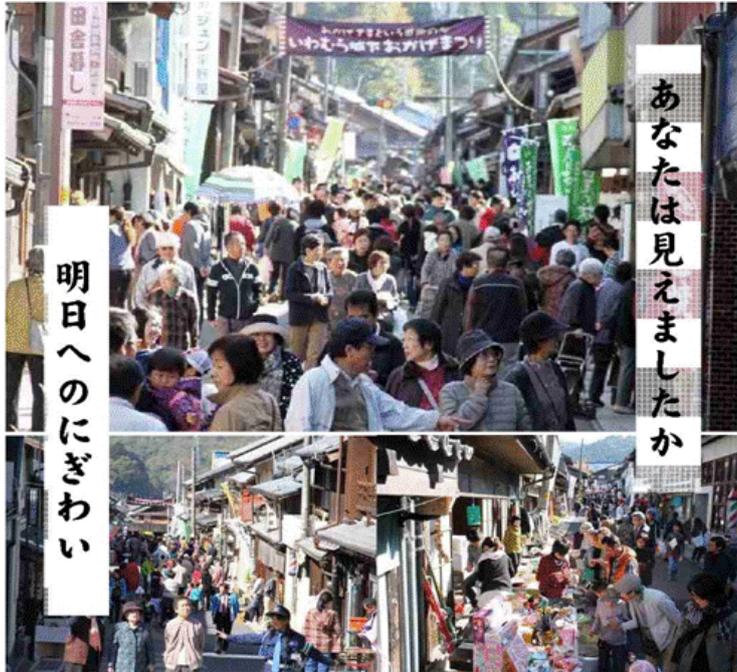
- 計画の進捗に影響あり
- 計画の進捗に影響なし

状況を示す写真や資料等



2012 いわむら城下おかげまつり

～女城主・ゆがしき里 明日へのにぎわい～



～13,000人のおかげさま～

ほっと・ホット・もっと いわむら(通称ホットいわむらだより)
フリーペーパーに掲載された「2012いわむら城下おかげまつり」

法定協議会等におけるコメント

(様式4)

評価対象年度	平成24年度
・法定協議会等におけるコメント	
コメントが出された会議等の名称: 恵那市歴史的風致維持向上計画協議会	
会議等の開催日時: 平成25年3月26日(木)13:30~15:00	
(コメントの概要) <ul style="list-style-type: none">・古い建物は改修、解体時はいろいろ貴重な発見ができるチャンスである。記録を丁寧に残すことが大切。・文化財に対する市民の理解を高めていくことが大切である。・加納家の作業の様子を一般公開した取り組みはたいへん良い。・電線地中化により街の印象が変わった。空の広がりを実感できる。・事業は順調に進行している。・事業を進めることにより、地域まちづくりの具体的な方向性ができてきた。・文化財、歴史街並みに対する市民の理解を高める工夫がされている。・人が住み活用し残っていく文化、地域づくり、住み続けることが大切。	
(今後の対応方針) <ul style="list-style-type: none">・歴史、景観を生かしたまちづくりのために経済部局との連携が大切。・駅前から、伝建地区への人の流れをいかに作るかの今後の取り組みが必要。	